

# 教育委員会

## 平成24年度当初予算のポイント

### 1 予算編成にあたっての基本的な考え方

教育委員会では、厳しい財政状況の中、喫緊の課題への対応として「学校における防災教育・防災対策の推進」、中期的な課題への対応として「三重県教育ビジョンの推進」と「スポーツの推進」の3点について重点的に取り組むこととし、予算編成にあたりました。

#### (1) 学校における防災教育・防災対策の推進

大規模地震等の災害から子どもたちの命を守るため、昨年12月に策定した「三重県の学校における今後の防災対策・防災教育の在り方について〈指針〉」に基づき、学校における防災教育・防災対策を一層推進します。

#### (2) 三重県教育ビジョンの推進

「三重県教育ビジョン」の理念をより具現化するため、学力の向上、学びを保障する基盤づくり、地域に開かれた学校づくり、キャリア教育の推進と就労対策の充実に向けて、より実効性のある取組を学校・家庭・地域が一体となって県民総参加で進めます。

#### (3) スポーツの推進

平成33年の第76回国民体育大会の開催に向けた取組を契機として、みえのスポーツの推進に一層取り組み、県民の皆さんの一体感を醸成するとともに、スポーツを通じた地域の活性化を図ります。

### 2 主な重点項目

#### (1) 学校における防災教育・防災対策の推進

##### ① (新)学校防災推進事業 【緊急課題解決1】 14,233千円

大規模地震等の自然災害に備え、学校における平常時の防災教育・防災対策の充実を図るとともに、災害時に児童生徒の安全確保のための迅速かつ的確な対応が可能となるよう、学校防災のリーダーとなる教職員を養成します。

また、学校における防災タウンウォッチングや防災マップづくりなどの体験型防災学習の支援、防災ノート等を活用した学習により、防災教育の充実を図るとともに、保護者、地域住民等との合同の避難訓練や防災学習の支援により、学校・家庭・地域の連携を促進します。

##### ② (新)学校防災機能強化事業 【緊急課題解決1】 445,049千円

大規模災害発生時に、児童生徒の安全を確保し被害を軽減するため、市町が実施する小中学校の非常用発電機や投光器等の防災機器の整備等を支援するとともに、県立

学校において、全校に防災用毛布等の備蓄、孤立想定地区に所在する学校に水・食料の備蓄や衛星携帯電話の整備等を行い、学校の防災機能を強化します。

③ (一部新) 学校施設の耐震化推進事業 【緊急課題解決 1】 827,727千円

県立学校の校舎等において、大規模地震に備えた耐震化を引き続き進めます。

(耐震補強工事 3校3棟、耐震補強設計 2校5棟、吊り天井改修 1校)

また、建築基準法の規定に基づく建物・設備等の法定点検に併せて、外壁、内壁、天井材等の非構造部材の耐震対策を進めるため、専門家による点検を実施します。

**(2) 学力の向上**

① (一部新) 「確かな学力」を育む総合支援事業 【新しい豊かさ協創 1】

30,377千円

児童生徒の学力向上を図るため、全ての公立小中学校において全国学力・学習状況調査の実施・活用を促進し、調査結果の分析に基づく授業方法の工夫改善への支援を行います。また、実践推進校には、学力向上アドバイザーの派遣等により、総合的な支援を行います。(県内 29市町に 100校程度の実践推進校を指定)

② (一部新) 少人数教育推進事業 【新しい豊かさ協創 1】 1,306,141千円

国の制度による小学校 1年生の 35人学級編制のもと、本県独自の取組である小学校 1、2年生での 30人学級(下限 25人)、及び中学校 1年生での 35人学級(下限 25人、実情に応じて 2年生あるいは 3年生に弾力的に振替)を継続するとともに、国の定数を活用し、小学校 2年生の 36人以上学級の解消を図ります。

また、小中学校において、少人数授業などを実施するための教員配置(小学校:定数 40人、非常勤 185人、中学校:定数 12人、非常勤 50人)を継続し、各学校の実情に応じた学力向上の取組を支援するなど、きめ細かな教育を推進します。

③ (新) 「志」と「匠」の育成推進事業 【新しい豊かさ協創 1】 20,496千円

理数及び英語教育の充実に向け、「Mie SSH (Super Science High School)」や「Mie SELHi (Super English Language High School)」に取り組む県立高校を指定し、地域の中核的拠点として、大学・小中学校との連携のもと、先進的・発展的な学習を進めるとともに、科学オリンピック大会の開催や留学への支援、コア教員の養成を行います。(「Mie SSH」指定校: 5高校、「Mie SELHi」指定校: 7高校)

また、専門高校を中心に、より高度な技術の習得や難易度の高い資格の取得等をめざせるよう、大学や企業との連携及び指導方法の研究を行います。(若き「匠」育成プロジェクト推進指定校: 3高校)

④ 教職員の授業力向上推進事業 【新しい豊かさ協創 1】 16,951千円

教職員一人ひとりの授業力向上を図るため、経験年数や校種の異なる教職員の相互研さんによる研修を継続的に行うとともに、各学校が自らの力で校内研修を活性化さ

せることができるよう、授業研究担当者の育成を行います。また、教職員の学校づくりや学級づくりの力を向上させるために、各学校で中核となって取組を進める人材の養成を進めます。

⑤ (新) 学力向上県民運動推進事業 【新しい豊かさ協創1】 1,584千円

「学力向上県民会議(仮称)」を新たに設置し、学校・家庭・地域などさまざまな主体との連携・協力のもと、学力向上に向けた県民運動を実施します。また、キックオフイベントの開催や啓発リーフレットを配布するなど、県民運動の広報・PRを行い、県民総参加による取組を展開します。

**(3) 学びを保障する基盤づくり**

① (新) 早期からの一貫した教育支援体制整備事業 【緊急課題解決6】

13,845千円

就学から卒業までの学校教育段階における、発達障がいを含むすべての障がいのある幼児児童生徒の支援情報を円滑に引き継ぐため、「パーソナルカルテ」の作成を促進するとともに、特別支援学校のセンター的機能の発揮と外部の専門家等の積極的な活用により、相談・支援体制の充実を図ります。(パーソナルカルテ推進強化市町: 16市町、平成27年度までに全市町で取組)

② (一部新) 多文化共生社会の担い手をつくる外国人児童生徒教育推進事業《小中》

【新しい豊かさ協創5】 40,651千円

外国人児童生徒の就学相談や初期適応指導等、受入体制整備に係る取組を支援します。また、専門的な知識・技能を有する巡回相談員やコーディネーターを派遣し、日本語指導、学校生活への適応指導の充実を図るとともに、日本語で学ぶ力の育成をめざしたカリキュラム(JSLカリキュラム)の実践研究を進め、三重県モデルの確立をめざします。

(受入体制に係る取組支援: 8市町、JSLカリキュラムの実践研究: 7市町で実施)

③ (新) 社会的自立を目指す外国人生徒支援事業《高校》 【新しい豊かさ協創5】

3,446千円

年々増加する日本語支援が必要な外国人生徒に対応するため、拠点となる高校(飯野高校)に外国人生徒支援専門員(1名)を配置し、高校におけるJSLカリキュラムの開発と取組の充実を図り、三重県モデルの確立をめざすとともに、進路指導等のカウンセリングや、保護者対象の教育相談等の支援に取り組みます。また、飯野高校に建設を予定している多文化共生棟を活用して、取組の充実を一層図ります。

④ (新) 学びの環境づくり支援事業 【新しい豊かさ協創1】

25,213千円

いじめや暴力行為、不登校などの課題を解決し、子どもたちの学びを保障するための環境づくりを推進していくため、従来の取組に加え、中学校区を単位として重点的

に取り組む地域（15中学校区）にスクールカウンセラーを配置し、小中学校間のスムーズな連携や継続した支援を進め、教育相談体制の充実・活性化を図ります。

⑤ **（一部新）学びを保障するネットワークづくり事業** 【新しい豊かさ協創1】

13,700千円

いじめ、不登校など子どもたちを取り巻くさまざまな課題の解決や未然防止を図るため、新たな仕組みとして、学校、保護者、地域住民等が一体となって取り組む「子ども支援ネットワーク」を中学校区の単位で構築し、子どもたちの自尊感情や学習意欲の向上を支えます。（ネットワーク構築の中学校区：平成24年度は10校区、平成27年度までに40校区）

また、ネットワーク構築の際に、要となる教員の育成を支援します。

**(4) 地域に開かれた学校づくり**

① **（一部新）地域と協働する学校運営支援事業** 【新しい豊かさ協創1】 16,912千円

公立学校において、保護者や地域住民等の学校運営や教育活動への参画を進めるため、市町教育委員会と連携して、公立小中学校へのコミュニティ・スクール等の導入を支援するとともに、県立学校における学校関係者評価の義務化に伴い、学校関係者評価委員等を対象とした研修会の実施や評価結果に基づく改善活動への支援を行います。

② **（新）地域による学力向上支援事業** 【新しい豊かさ協創1】 11,626千円

子どもたちの学力向上を図るため、大学生や教員経験者等地域住民がその知識・技能を生かし、学習活動の補助を行うなど地域人材を活用する取組を進めます。（県内8市町で実施）

③ **（一部新）「ふるさと三重」郷土教育推進事業** 6,038千円

郷土を愛する心を醸成するため、教材「三重の文化」を活用した授業に取り組むほか、郷土の文化財を学ぶことができる学習メニューの開発や出前講座の実施、「<sup>うま</sup>美しくかるた（仮称）」の作成等をとおして郷土教育を推進します。

**(5) キャリア教育の推進と就労対策の充実**

① **（一部新）キャリア教育実践プロジェクト事業** 18,834千円

地域と連携して小学校・中学校・高校の組織的・体系的なキャリア教育を推進するとともに、職業意識・進路意識を醸成する機会の創出や、産業界の手法を活用した高校生のためのキャリア教育モデルプログラムの開発・普及、就業体験の充実に取り組み、児童生徒の社会的・職業的自立に必要な能力・態度を育成します。（小中高一貫のキャリア教育推進強化市町：10市町、高校生のためのキャリア教育モデルプログラム開発校：3校）

- ② (一部新) 高校生就職対策緊急支援事業 【緊急課題解決 4】 31,334千円  
 県立高校の就職指導のプロセス改善のための取組や、企業で管理職や人事部門の経験を有する就職支援相談員の配置、地域連携会議・就職情報交換会の開催等により、就職を希望する高校生の進路実現を図ります。  
 (就職支援相談員の配置：10人、キャリア教育推進地域連携会議の実施：7箇所)
- ③ (一部新) 特別支援学校就労推進事業 【緊急課題解決 6】 16,074千円  
 職業に関するコース制の導入や早期からの職場実習の実施、職種と本人の適性のマッチングを図り、学びが就労に直結する特別支援学校版キャリア教育プログラムを構築します。また、外部人材(キャリア教育サポーター)の活用を図るとともに、関係部局、企業、NPO等と連携し、障がい者就労支援ネットワークを形成します。
- ④ 特別支援学校企業就労実現支援緊急雇用創出事業 26,408千円  
 特別支援学校に、企業等で人事、総務部門の経験を有する職域開発支援員(9人)を配置し、生徒の適性と職種・業務とのマッチング、職場開拓、雇用促進要請などを行い、新たな職域の開発を図るとともに、企業への就労を促進します。
- ⑤ (新) 共に働きやすい職場づくりモデル事業 11,655千円  
 障がいのある人が、障がいの状況に応じて働くことができる職場づくりをめざして、県立学校においてモデル的に任用を行います。

## **(6) スポーツの推進**

- ① (新) 第76回国民体育大会開催準備事業 10,165千円  
**【地域連携部へ移行】**  
 平成33年の第76回国民体育大会の本県開催に向け、県、市町、民間等からなる国体準備委員会(仮称)を設置します。  
 また、開催県や開催予定県から情報を収集し、会場地選定に向けた調査や調整など、開催準備を円滑に推進します。
- ② (新) 競技スポーツジュニア育成事業 【新しい豊かさ協創 2】 40,211千円  
**【地域連携部へ移行】**  
 将来有望なジュニア選手を「チームみえジュニア」として育成するとともに、県内トップレベルの高等学校運動部活動を強化指定し、高校生アスリートの競技力向上を図ることで、将来、オリンピック等国内外の大会で活躍する選手を育成します。
- ③ 未来につなぐ子どもの体力向上事業 46,984千円  
 未来のみえのスポーツを支える子どもたちの体力向上に向けて、地域のスポーツ人材を学校へ派遣し、体育の授業の工夫改善や運動部活動の充実を図ります。

④ (新)みえのスポーツ応援事業 【新しい豊かさ協創2】 4,670千円

【地域連携部へ移行】

スポーツを通じた地域の活性化について検討するため、関係団体、企業等のさまざまな主体で構成する「みえのスポーツ・まちづくり会議(仮称)」を新たに設置します。

また、県民が広くスポーツを応援する仕組みづくりを進め、スポーツボランティアバンクを創設するとともに、みえのスポーツを推進するための財源等の確保に向けた取組を行います。

⑤ (新)みえのスポーツ地域づくり推進事業 【新しい豊かさ協創2】 2,730千円

【地域連携部へ移行】

スポーツを地域経済の活性化や観光振興につなげるため、「スポーツコミッション」の推進に向けた市町の取組を支援します。

また、スポーツ大会等の開催に県内医療系大学生や専門学校生等を活用してメディカルサポートを実施するほか、県内トップチームが地域に定着するための取組等により地域を活性化します。

⑥ (新)第22回世界少年野球大会三重・奈良・和歌山大会開催事業

【南部地域活性化プログラム】 35,000千円

【地域連携部へ移行】

紀伊半島大水害により被災された地域とそこに暮らす方々を勇気づけ、未来の希望につながる機会とするため、第22回世界少年野球大会を本県及び奈良県、和歌山県の3県で開催します。

(大会概要)

- ・期間 平成24年7月22日～30日
- ・場所 熊野市を中心とした紀伊半島南部地域
- ・大会参加者 世界の15の国・地域から子どもたちが参加
- ・大会内容 野球教室、交流試合、交流会

### 3 事業の見直し

#### (1) 三重県版事業仕分け

	事業本数	事業費
廃止	22本	▲291,218千円
リフォーム	17本	▲144,725千円
休止	一本	—千円
現行どおり	9本	▲203,216千円
拡充	1本	5,071千円
合計	49本	▲634,088千円

(2) 三重県版事業仕分け以外

	事業本数	事業費
廃止	2本	▲24,130千円
リフォーム	6本	▲28,714千円
休止	一本	－千円
合計	8本	▲52,844千円

